

IMF サーベイ

IMF 政策諮問パネル

IMF、信認の回復に向け 早急に合意済みの政策の実施を求める

IMF サーベイ・オンライン
2012年10月13日



IMF の政策諮問委員会は、加盟国に対し、世界経済を強固で持続可能かつ均衡ある成長軌道に再びのせるために、断固たる対応を採るよう求めた（写真：IMF）

- IMF 加盟国、信認の回復に向け重要な政策措置の実施を求める
- 雇用と成長、債務の持続可能性および金融システムの修復を重視
- 加盟国に対し、ガバナンス改革への最終段階の完了を求める

世界経済の成長が鈍化し信認が再び欠如しているなか、IMF は政策立案者に対し、世界経済を回復し雇用創出を促進するための取り組みの一環として最近数カ月で合意した政策を実行するよう求めた。

東京で開催された年次総会において、IMF の政策諮問委員会は[加盟国](#)に対し、負のフィードバック・ループを打破し、世界経済を強固で持続可能かつ均衡ある成長軌道に再びのせるために、断固たる対応を採るよう求めた。

10月13日に[国際通貨金融委員会](#)（IMFC）の協議終了に伴い記者会見に臨んだ、シンガポールのターマン・シャンムガラトナム財務相は、「IMFC 全メンバーは、我々が置かれている状況は半年前と比べ良いという点で合意した。我々は、成長を回復し財政健全化を成し遂げるための政策基盤をめぐってより良い状況にある」と述べた。

ターマン氏は、IMFC メンバーは、財政の持続可能性の達成や構造改革といった中・長期的な課題への対処や、短期的には成長を支えるうえで不可欠な政策を決定するといった、現在の重要な課題を明確に示したと述べた。また同氏は、IMF は、サーベイランスのツールキットを強化したことから、グローバル化が進んだ経済の諸課題に対処する能力をこれまで以上に備えていると述べた。

実施へのコミットメント

クリスティーヌ・ラガルド専務理事は、IMFC の協議の中核となった政策実行への力強いコミットメントについて言及するとともに、確実な中期的財政健全化の実施に向けたメンバーの意思を強調した。

「政策実施への非常に力強いコミットメントが存在する。世界的な政策課題で合意に至ったが、この政策課題は、メンバーが実行に合意した内容を明確に示している」

ユーロ圏は引き続き危機の震源地となっているが、同地域の実質 GDP は今年低下する見通しである。しかし、米国がいわゆる財政の崖の問題を解決することができるかという点についての見通しが不透明であることも、信託を弱めている。

ターマン氏は、「米国の財政の崖の問題とこの問題をめぐる不確実性が全世界に影響を及ぼしている。波及効果は、行動を採ることによってのみ生じるのではなく、『行動を起こさないこと』によっても生じる。より強固な政策基盤を備えた欧州が、時宜を得たかたちで約束を果たすかは依然不透明であるが、3カ月前と比べ我々は楽観視している」と述べた。

同氏はまた、中・長期的な課題を重視する必要があると強調した。「我々は財政の持続可能性と、競争および成長を回復するための構造改革という作業に焦点を合わせる必要がある」

より強力なファイアウォール（防火壁）

東京での年次総会では、IMFの財源を4,560億ドル拡充することで、IMFの融資能力を総額1兆ドル以上とするとした、これまでの公約が確実となった。ラガルド専務理事は「我々の世界規模のセーフティネットは錯覚ではなく現実だ。実在するものでありより強力となった。4,610億ドルまできており、その約半分は二者間合意である」と述べた。

さらに加盟国は、金の売却に伴う想定外の利益をIMFの貧困削減・成長トラスト（PRGT）を強化し譲許的融資に活用することでも合意した。ラガルド専務理事は「譲許的融資のための資金として、我々にはPRGT基金があるがこれは補強が必要だった。そして、我々は同基金の補強に必要な加盟国の承認を確保することができた」と述べた。

ガバナンス改革の履行を訴える

IMFCが発表した声明の中で、メンバーは2010年のクォータ（出資割当額）とボイスの改革の履行を呼びかけた。同改革は、アジアなどで急成長を遂げる加盟国により一層の発言権を付与するものだ。「改革を発効させるために必要なほとんどの条件は達成された。我々は、これらの重要な改革を発効させる緊急性を再確認し、まだ必要な手続きを完了していない加盟国に、それを行うよう求める」